

次期博士支援事業について

科学技術・学術政策局 人材政策課

2023年6月

次期博士支援事業について（骨子）

- 博士後期課程学生への経済的支援とキャリアパス整備を一体として行う実力と意欲のある大学を支援するため、令和3年度より「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）事業」を実施しているところ。
- 博士学生支援事業を継続していくにあたり、二つの事業が併存することによる大学及びファンディング機関の負担軽減並びに学生の利便性向上のため、令和6年度より両事業の運用を一本化することを検討。
- 令和6年度以降の事業実施にあたり、令和5年度に再度審査を行い、新たに事業実施大学を選び直すこととしたい。

※採択大学数、支援人数規模、支援単価の考え方等は今後要調整。

※国際卓越研究大学として認定され、大学ファンドからの助成を受ける大学については、既に支援を受けている博士課程学生に不利益が生じないことを前提に、次期博士支援事業の支援対象から除くことを想定。

次期博士支援事業 概要（骨子）

【基本スキーム】

・基本は現行SPRINGのスキームを継承する方向で、現在の大学による一部自己負担の在り方や大学独自の学生支援策の取組状況を確認しつつ、具体的な事業設計については今後検討。

（現行SPRING及びフェロー事業における支援単価の考え方等を踏まえ、研究費と生活費相当額からなる研究奨励費とキャリアパス整備に係る経費を含む支援を想定（経済的支援＋キャリアパス整備））

・キャリアパス整備については、ジョブ型研究インターンシップへの更なる参画（支援対象学生のジョブ型研究インターンシップシステムへの登録※）とともに、より実効性の高い具体的な計画となっているか確認する等、フォローアップのあり方を明確化。

※ システムへの登録の詳細については、令和4年11月24日付事務連絡「博士学生へのキャリアパス拡大に向けた取組について」を参照。

【事業期間】

・大学ファンドによる運用益からの支援を含め、長期的かつ安定した支援を行うことを検討。

・毎年度の事業進捗を確認するとともに、事業の中間段階での評価を実施。

【大学独自の取組】

申請機関において、独自財源による取組も含め、継続性を確保し得る体制構築や明確な事業計画の設定（研究奨励費等の追加支給やキャリア開発・育成コンテンツの拡充等）がなされているか審査時に確認。

【継続支援分の扱い】

現行事業において既に支援を行っている学生に不利益が生じないよう、継続分は着実に支援できるよう実施。

※安定的支援を実施できる段階から、速やかに大学ファンド運用益による博士課程学生支援を実施することとしているが、そのタイミングや金額については、大学ファンドの運用の安定の観点や運用益の状況をふまえて決定。

次期博士支援事業について（RFI）（概要） （※詳細はwebフォーム参照）

【① RFI形式の調査を行う趣旨】

次期博士支援事業による支援の単価や支援人数等を含めた具体的な事業設計について今後検討していくことになるため、それに先立ち、大学側のニーズを正確に把握する目的で本調査を実施。このため、【基本スキームについて】を中心に、大学として可能な限り回答をお願いしたい。

（回答は評価に用いるものではなく、回答の有無は次年度事業の採択に影響しない。）

（調査期間：6月説明会開催後1か月程度を想定）

【② 基本スキームについて】

・以下の経費について、どの程度の規模が必要と考えるか。

○生活費相当額（必要ない／180万円程度／180万円～240万円程度／240万円以上）（※学生一人あたりの経費）

○研究費（必要ない／50万円程度／50万円～70万円程度／70万円以上）（※学生一人あたりの経費）

○事業統括配分経費（必要ない／50万円程度／50万円～70万円程度／70万円以上）（※学生一人あたりの経費）

○大学事務費（必要ない／支援総額の○%程度 or ○万円程度）（※一大学あたりの経費）

・生活費相当額及び研究費について必要とする場合、それぞれその規模を必要とする理由（※自由記述）

・事業統括配分経費及び大学事務費について必要とする場合、それぞれ具体的にどのような事業を行うことを想定しているか。（※自由記述）

【③ 大学独自の取組について】

・大学ファンドによる運用益からの支援が行なわれることを想定し、大学において将来の自走化（大学の自己資金による博士支援）も含めて今後の博士支援の計画として何年程度の計画を作成することを想定しているか。（1～3年程度／3～5年程度／5～10年程度／10年以上）

・次期博士支援事業による支援も含め、博士支援について大学独自の取組として支出することが考えられる経費について、①財源はどのように想定しているか。②【基本スキームについて】で回答した経費のうちどの部分をまかなう形が考えられるか。

【④ 継続支援分の扱いについて】

・現行事業（SPRING及びフェロー事業）におけるR5年度の支援のうち、R6年度に学年進行により継続する必要がある人数は何人程度か。

【⑤ その他】

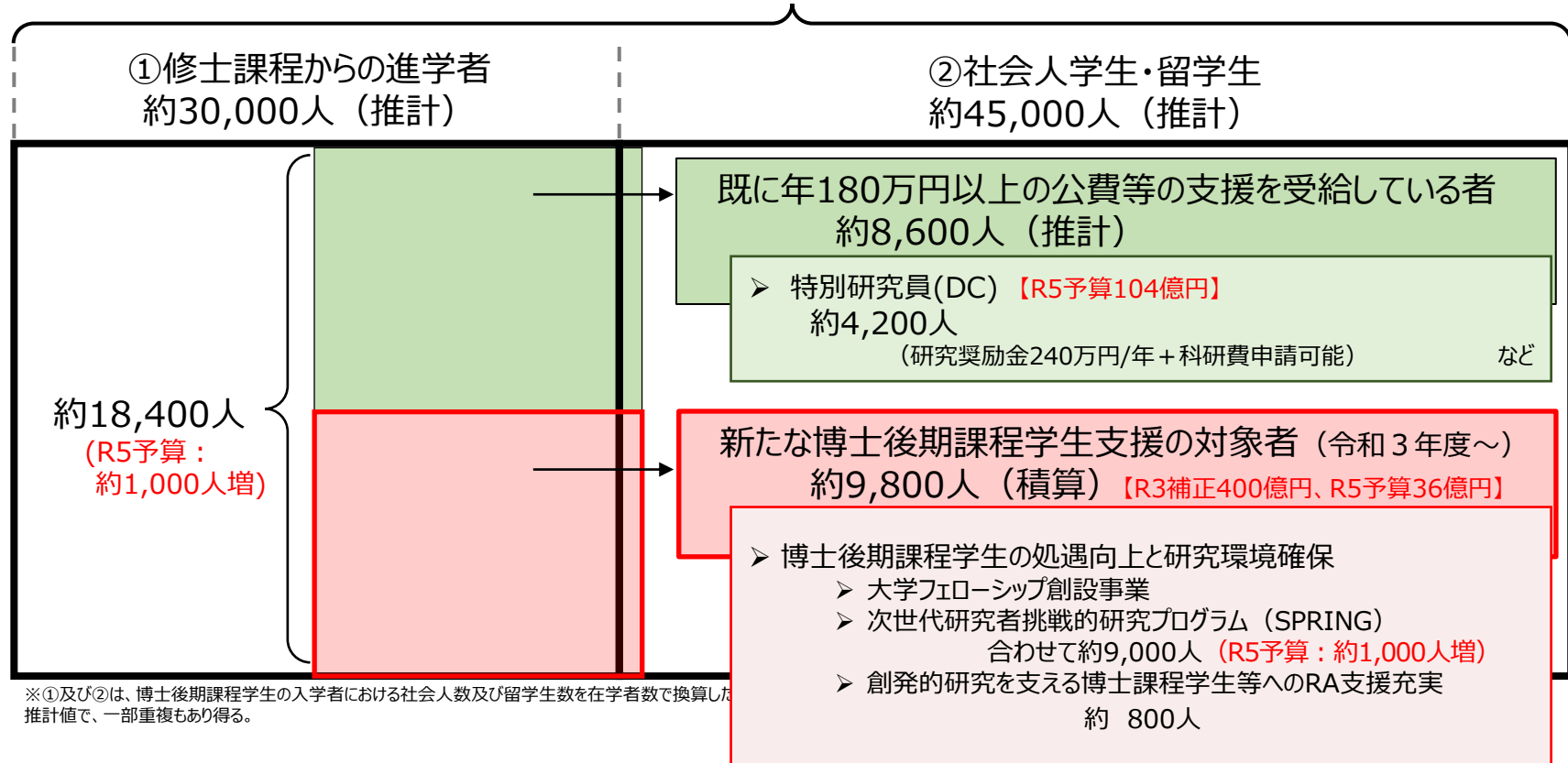
・次期博士支援事業による支援人数について、R6年度にどの程度の人数を想定しているか。（R5年度より少ない／R5年度と同程度／R5年度より多い／未定／（R6年度より新規に応募）／（次期博士支援事業には応募しない））

・国際卓越研究大学として認定され、大学ファンドからの助成を受ける大学については、大学ファンドからの助成開始以降、次期博士支援事業の支援対象から除くことを想定しているが、それについての意見（賛成／反対及びその理由）（※自由記述）

以下、参考資料

博士後期課程在学者数：75,256人（令和4年度）

（出典）文部科学省、学校基本調査



第6期科学技術・イノベーション基本計画：2025年度までに、生活費相当額を受給する博士後期課程学生を従来（※約1割）の3倍（=約22,500人）に増加

① トップ層の若手研究者の個人支援

【主な取組】特別研究員事業（DC）

支援額：240万円（+ 科研費最大150万円応募可能）
支援規模：約4,200人
令和5年度予算額：104億円
（日本学術振興会（JSPS）の運営費交付金の内数）

→ **トップ研究者への登竜門として支援を充実**
※ 科研費の基金化等により研究活動の充実を図る

③ RA（リサーチ・アシスタント）経費の適正化

【主な取組】創発的研究支援事業 （博士課程学生等へのRA支援充実）

支援額：最大240万円（RAとしての労働対価）
支援規模：令和2、3、4年度の採択課題に対し
約800人分のRA支援経費を措置
令和3年度補正予算額：53億円
（科学技術振興機構（JST）創発的研究推進基金）

→ **適正な対価の支払いを当たり前！**
※ 競争的研究費等からの、適切な水準でのRA経費の支給を推進

② 所属大学を通じた機関支援

【主な取組】

以下①、②を一体的に運用

令和5年度予算額：36億円
令和3年度補正予算額：347億円
（科学技術振興機構（JST）創発的研究推進基金）

支援額：生活費相当額180万円以上 + 研究費

① 大学フェロシップ創設事業

採択大学数：46大学

② 次世代研究者挑戦的研究プログラム （SPRING）

採択件数：59件（61大学）

令和5年度支援規模：① + ②合わせて約9,000人
（R5予算額：約1,000人増）

→ **博士人材の多様な活躍に向けて、経済的支援とキャリアパス整備を一体的に実施**

【参考】第6期科学技術・イノベーション基本計画

2025年度までに、生活費相当額（年180万円以上）を受給する博士後期課程学生を従来の3倍（約22,500人）に増加

背景・課題

- 博士後期課程学生は、我が国の科学技術・イノベーションの一翼を担う存在であるが、近年、「**博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない**」「**博士課程修了後の就職が心配である**」等の理由により、**修士課程から博士後期課程への進学者数・進学率は減少傾向**にある。
- このため、①**優秀な志ある博士後期課程学生への経済的支援を強化し処遇向上を図る**とともに、②**博士人材が幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進める**ことが急務。

【第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定） 抜粋】

優秀な博士後期課程学生の処遇向上に向けて、2025年度までに、生活費相当額を受給する博士後期課程学生を従来の3倍に増加

事業概要

【事業概要】

優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための経済的支援（生活費相当額及び研究費）及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するためのキャリアパス整備（企業での研究インターンシップ等）を一体として行う実力と意欲のある大学を支援する。

※「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースhip創設事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」を一体的に運用し、令和5年度は全体で約9,000人（令和4年度より約1,000人増）の博士後期課程学生の支援を行う。（前年度も支援を受けていた学生を含め、約7,000人を新規採択）

※令和5年度は、上記2事業の一体化を進め、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースhip創設事業」におけるキャリアパス整備に係る支援を充実。

【支援内容】

①優秀な博士後期課程学生への経済的支援

優秀な博士後期課程学生を選抜。学生が研究に専念できるよう、生活費相当額（年間180万円以上）及び研究費からなる経済的支援を実施。

②博士人材のキャリアパス整備

高度な研究力を有する博士人材が多様な分野で活躍できるよう、企業での研究インターンシップや海外研鑽機会の提供、マネジメントなどのスキル形成等の取組を実施。

【支援規模等】

支援対象：国公立大学（JSTによる助成事業）

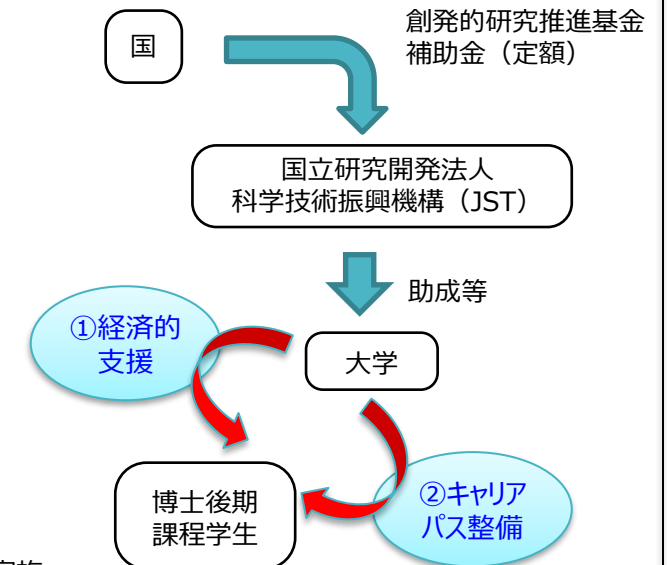
支援人数：約9,000人/年（博士後期課程学生1年（秋入学を含む）、2年、3年、4年（4年制のみ）の合計）（令和4年度より約1,000人増）

支援単価：博士学生1人当たり、生活費相当額180万円以上＋研究費

事業期間：令和3年度より支援開始。終了時期は、学生への支援の安定性に留意しつつ、各大学の取組状況や大学ファンドの運用益による支援策の検討状況等を踏まえ判断。

※あわせて、「創発的研究支援事業」により、研究者をリサーチ・アシスタント（RA）として支える博士課程学生等に対する支援を実施

【支援スキーム】

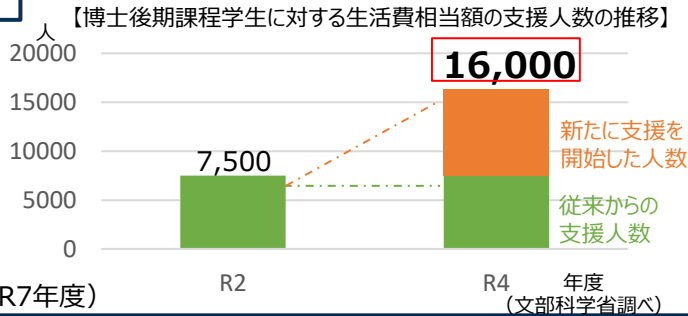


① 経済的支援

選抜された学生に対し、**生活費相当額（年間180万円以上）**及び**研究費からなる経済的支援**を実施。

<定量的エビデンス>

✓ 合計で**従来の倍以上となる約16,000人**(※)の博士後期課程学生に対し、生活費相当額（年間180万円以上）の支援を実現（R4年度）



<大学の声>

- 修士課程から**博士後期課程への進学者数が1.5倍に増加**した。
- 経済的支援により**学生のモチベーションが向上**している。
- 博士課程への経済的支援の重要性に対する**大学執行部の意識が変化**した。
- 本事業をきっかけに**大学独自予算による経済的支援**が行われている。

<学生の声>

(進学の後押し)

- 生活費支援がなかったら、**進学を途中で断念していた**かもしれない。
- **家庭の事情やコロナ禍によって研究を継続できるか不安**であったが、**経済的支援により研究を続けることができた**。

(研究環境の改善・研究能力の向上)

- 生活費を受給できたことで、**アルバイトをやめて研究に専念**できるのがありがたい。
- 実験に必要な物品等が購入でき、**研究が加速**している。
- 研究費を持つことができ、**計画的な経費執行の仕方について勉強**になっている。

(精神状態の改善)

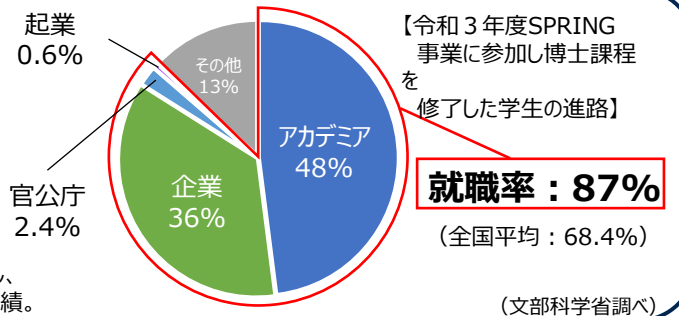
- 貯金を月数万円できる位余裕があり、**メンタル的に状況が良い**。

② キャリアパス整備

博士人材が産業界等を含め**幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備**を実施。（各大学における取組例）

企業インターンシップの実施 / 企業研究者・異分野研究者等との**交流会**の実施
メンター制度の導入 / 学生主導の研究発表会・社会課題ワークショップ等の開催
海外での研究活動の支援 / トランスファブルスキル・SDGs等に関わる講座の開設 等

- ✓ 修了生(※)の**87%が就職**（博士課程修了者全体の就職率：68.4%）
- ✓ アcademia・企業・官公庁・起業等の**多様なキャリアパス**を実現



- 研究開発・研究マネジメント業務に従事している**企業研究者からのメンタリング**により、**学生が新たな気付きを得る**ことができるようになった。
- トランスファブルスキルを身につけるプログラムへの参加を選抜時の加点对象としたところ、**博士課程進学前から当該スキルに係る授業を積極的に受ける傾向**がある。

(人脈の拡大)

- 異分野の研究者 / アcademia以外を志す研究者 / 企業の人との**交流ができたのが良かった**。
- **人脈が広がる**という恩恵が大きい。

(視野の拡大)

- 企業など**多岐にわたるキャリアの可能性**を知った。
- 企業に対する発表等へのフィードバックで**異分野を含めた新たな知識、気づき**が得られたことが最も役に立っている。
- アントレプレナーシップについてなど、**ためになる講義**があった。新しい発見があり、**成果の社会還元への意識**を持った。自分の将来への方向付けになり、有意義。
- 研究職とAcademiaの橋渡しの研究に興味があり、キャリア面談で**Academia目線だけでなく企業目線でも相談に乗っていただけると良い**と感じている。

「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」・「次世代研究者挑戦的研究プログラム」令和5年度支援予定数

	機関名	支援予定規模（人）		
		フェロー	SPRING	計
1	北海道大学	180	467	647
2	室蘭工業大学	0	18	18
3	弘前大学	0	18	18
4	東北大学	360	511	871
5	秋田大学	24	0	24
6	山形大学	30	0	30
7	茨城大学	18	0	18
8	筑波大学	93	351	444
9	群馬大学	0	22	22
10	千葉大学	60	150	210
11	東京大学	330	600	930
12	東京医科歯科大学	18	135	153
13	東京外国語大学	18	0	18
14	東京農工大学	18	120	138
15	東京工業大学	120	187	307
16	お茶の水女子大学	18	0	18
17	総合研究大学院大学	36	20	56
18	東京海洋大学	0	15	15
19	電気通信大学	0	32	32
20	新潟大学	42	50	92
21	富山大学	30	45	75
22	金沢大学	81	120	201
23	山梨大学	18	11	29
24	信州大学	39	35	74

	機関名	支援予定規模（人）		
		フェロー	SPRING	計
25	静岡大学	18	0	18
26	名古屋大学/岐阜大学（※）	231	305	536
27	名古屋工業大学	0	13	13
28	三重大学	18	18	36
29	豊橋技術科学大学	24	0	24
30	京都大学	291	515	806
31	京都工芸繊維大学	18	18	36
32	大阪大学	234	420	654
33	神戸大学	42	151	193
34	奈良女子大学	21	14	35
35	奈良先端科学技術大学院大学	60	14	74
36	島根大学	0	12	12
37	岡山大学	30	30	60
38	広島大学	159	199	358
39	山口大学	0	38	38
40	徳島大学	24	24	48
41	愛媛大学	18	0	18
42	九州大学	102	349	451
43	九州工業大学	30	15	45
44	長崎大学	18	0	18
45	熊本大学	42	60	102
46	宮崎大学	0	13	13
47	北陸先端科学技術大学院大学	0	30	30
48	東京都立大学	45	30	75

	機関名	支援予定規模（人）		
		フェロー	SPRING	計
49	横浜市立大学	24	0	24
50	岐阜薬科大学	0	7	7
51	名古屋市立大学	18	26	44
52	京都府立医科大学	18	0	18
53	大阪公立大学（大阪市立大学+大阪府立大学）	96	87	183
54	兵庫県立大学	18	0	18
55	高知工科大学	0	5	5
56	北九州市立大学	0	8	8
57	青山学院大学	0	16	16
58	慶應義塾大学	0	263	263
59	創価大学	0	9	9
60	東京都市大学	0	10	10
61	東京農業大学	0	17	17
62	東京薬科大学	0	18	18
63	東京理科大学	30	30	60
64	東洋大学	0	11	11
65	早稲田大学	0	180	180
66	中部大学	0	9	9
67	京都産業大学	0	10	10
68	同志社大学	18	30	48
69	立命館大学	45	45	90
70	関西大学	0	25	25
71	甲南大学	0	8	8
	計（72大学）	3225	5989	9214

（※） 「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」 は名古屋大学のみ

(参考) フェロー事業とSPRINGの主な相違点

科学技術イノベーション創出に向けた 大学フェローシップ創設事業	次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING)
R5当初予算:36億円	R3補正予算:347億円
一般予算(R3) ⇒JST創発的研究推進基金(R4~)	JST創発的研究推進基金
3,000人規模(R5 D1+D2+D3) ※学年進行により支援	6,000人規模(R5年度D1~D4)
支給額200万円~250万円	支給額290万円(上限)
「国2:大学1」の3分の2補助	全額国費助成
大学事務費を別途措置	大学事務費、間接的経費等は無し
大学は4件を申請可能 ※ボトムアップ/AI・情報/量子/マテリアル	大学は1件のみ申請可能 ※分野指定なし
1件あたり1学年6名~40名	人数制限なし
採択数:46大学	採択数:59プロジェクト(60大学)

Q&A

追加のご質問・ご意見がある場合は、6月30日（金）までに

・文部科学省

人材政策課 人材政策推進室

e-Mail : fellowship@mext.go.jp

・科学技術振興機構

助成事業推進部 博士学生支援グループ

e-Mail : jisedai-application@jst.go.jp

の全てを宛先としEメールをお願いします。